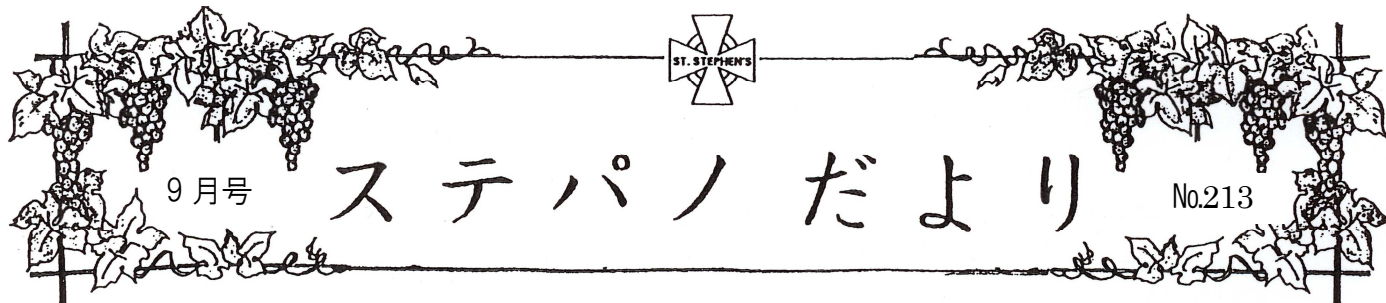




9月号

ステパノだより

No.213

今月の聖句

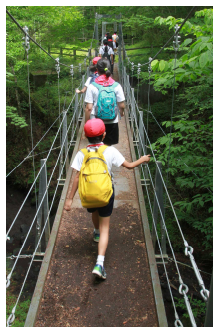
『わたしはぶどうの木、
あなたがたはその枝である。』
ヨハネによる福音書 第15章5節

◎9月の予定

- 1日(金) 2学期始業礼拝
- 4日(月) 給食開始
- 9日(土) ステパノまつり
- 11日(月) ステパノまつり代休
- 13日(水) 内科検診
- 14日(木) 身体計測 聖書教室
- 16日(土) 学校説明会②
- 19日(火) 創立記念日・創立記念礼拝
- 25日(月) 27日(水) 体験学習①(中)
- 28日(木) 教務委員会

◎10月の予定

- 2日(月) 5日(木) 教科テスト(中)
- 5日(木) 教職員協議会
- 10日(火) 11日(水) 入学願書受付(小)
- 12日(木) 運動会予行
- 14日(土) 運動会
- 16日(月) 運動会代休(運動会予備日)



サマーキャンプ

富士山麓山の村にて
7月20～22日
小4～中3

〈今月の行事から〉

☆2学期始業礼拝 1日(金) 9時

☆ステパノまつり 9日(土) 10時～14時
今年のスローガンは、「時間を忘れても
りあがれ！笑顔でやさしくおもてなし」。
常日頃からお世話になっている方々を
たくさんお招きして、みんなで感謝の気持
ちを伝えられるように、心を合わせてがん
ばります。

今年は卒業生のプロドラマー井上瑠哉
くんが、ステパノまつりのオープニングを
盛り上げてくれます。井上くんは、ジャズ
ピアニストの前田憲男氏や八神純子さん
渡辺真知子さん、コーラスグループのサー
カスと共演を果たす等、現在大活躍中のド
ラマーです。在校生にかっこいい姿を見せ
てくれることでしょう。バンド Groove
Roxのみなさんとの演奏も行われます。

他にも大磯町の『高麗探鳥会』メンバー
さんによるアオバトの生態レクチャー、子
どもたちのユニークな出店、夏休みの課題
展示発表(中学生)など、様々な企画が用
意されています。ぜひ足をお運びください。

☆創立記念礼拝 19日(火) 9時
創立記念日(創立者澤田美喜誕生日)に
64周年をおぼえて礼拝を行います。

広島

学園長 小川 正夫

八月の声を聴くと六日、九日、十五日という言葉を鮮やかに思い出します。第二次世界大戦で日本が連合国軍に対して無条件降伏を決意した決定的な日が、一九四五年、七十二年前の八月六日、広島市民の上空で炸裂した原子爆弾。八月九日、長崎市民の上空で炸裂した原子爆弾で一瞬にして広島では十四万人、長崎では九万人の命が奪われ、その時生存した被爆者も五年以内に広島で四十万人、長崎で二十万人の尊い命が失われたという記録を読んだことがあります。

広島に原子爆弾が投下された翌日の新聞の一面には大きな見出しに、「広島に新型爆弾投下、政府重大決意か」とあったことを覚えています。当時は原子爆弾という言葉は使われていませんでしたが、関連記事には、特殊な爆弾で、これから先の五十年間は、一切の植物は生育できないし、人が生活できる環境ではなくなるといふ記述があったのを覚えています。そして八月十五日に日本国は無条件降伏で終戦を迎えました。

つまり、六日、九日、十五日は、新しい日本の歴史が始まることになったきっかけの重要な日になりました。ある人は、六たす九は十五になったと呼ぶ人もいます。

広島島の街も、長崎の町も、今は美しい街並

みがそろい、目覚ましい復興を成し遂げていますが、広島ばかりでなく、日本人の心に七十年以上も前のことは次第に記憶から遠ざかっていくように感じます。

私達の学校、聖ステパノ学園、児童養護施設エリザベス・サンダース・ホームも、今ある姿が最初からあったわけではなく、七十年の間には様々な姿の歴史がありました。

さて、聖ステパノ学園中学校の生徒は修学旅行では一日を平和学習にあて、広島を訪ねています。

平和記念公園には原爆の被害にあった方々の慰霊碑がありますが、その礎には「安らかに眠ってください、過ちは繰り返しませんから」と刻んであります。

素直にこの言葉を読んだとき、私はどのように理解したら良いのか悩んだことがあります。したが、こんなことがありました。

終戦の事実を受け入れられず、フィリピンのルバング島のジャングルで、三十年間も上官の兵役解除を待っていた元日本陸軍少尉、小野田寛郎という人が、最後の帰還兵として祖国の土を踏んでから、各地の戦没者の慰霊を続けていた時、広島を訪れ、原爆犠牲者慰霊碑の前に立ち、「安らかに眠ってください、過ちは繰り返しませんから」の文面を読み、一瞬、これはアメリカ軍の原爆投下の指揮官が書いた言葉かと思ったようです。この撰文は建立の時から議論があったようですが、私も小野田さんと同じ様に、アメリカ軍の原爆

投下の指揮官が書いたものであったらという、感想を持ったこともありました。「過ちを繰り返しませんから」の主語については少なからず議論があったそうですが、説明には「これは、すべての人が原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓った言葉で、過去の悲しみに耐え憎しみを乗り越え、全人類の共存繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念する広島の声です」とありました。

小野田さんは、晩年ブラジル奥地のパラグアイ川の近くに広い牧場を持ち、私も訪ねたことがあります。青少年の健全育成にも積極的に関わっていました。敗戦後ジャングルの中の三十年間の孤独な生活の中でも、挫けることなく、敗軍の将であつても、毅然として復員してきた姿は凛々しい姿でした。彼はこんな言葉も残しています。過去は捨てることができない、現在に止めることができない、しかし、未来は決めることができる。

核兵器が使われるかもしれないよ
うな未来は変えて
いかなければなり
ません。



小野田寛郎さん

教諭 和田 好江

小学校の七夕集会では、集会の後、お楽しみの流しそうめんを行いました。教室の外側のグラウンドへ向かう石廊下は、適度の傾斜で良い水の流れを作ってくれました。各クラス5、6分の時間ですが、そうめんをなかなか箸で取れない子どもから、上級生になると上手に取って食べている子ども達まで様々。給食も残さずしっかりいただきました。水の流れとグラウンドからの心地よい風と、子ども達の楽しそうな声と、素敵な夏の始まりでした。

小学校水泳教室は5日間の計画で、例年通り担任の先生方や講師の先生の力をお借りして、天候にも恵まれ充実した5日間となりました。スモールステップで自分なりのめあてをもって参加し、グループの先生と対話しながらがむしやらに取り組む子ども達は、本当に素晴らしいと感じました。体育科以外の先生方も、教室や授業で普段見られない子ども達の姿を見ることができると積極的にご指導くださいました。スイミングに通う子ども達もいますが、そうでない子どもが毎年の教室でクロール25m以上泳げるようになることも多く、子どもの計り知れない力、成長を感じました。可能な限りこの授業形態は続けていきたいと思っています。

毎年、夏休みの始めに行われるステパノサ

マーキヤンプは、静岡県富士山麓山の村へ出かけました。こちらへ行くのは3度目になりますが、大磯と比較しても最高気温が5度ほど違うので、涼しい中よい活動ができます。植物や昆虫、多種類の野鳥との出会い、暗闇の体験や仲間との活動…。より深い自然の中で小4～中3まで一緒に参加するキャンプは縦割りの時間や、小中それぞれの最高学年が中心となり、思い出深い3日間となりました。

さて、ステパノサマーキャンプより前の6月に、小学校では1～3年対象に「森のおとまり」を実施しています。毎年3年の子ども達が中心となり、はじまりの会や終わりの会、夕食のカレー作りなど1・2年生をリードしてくれました。3年生はご飯グループとカレーグループに分かれて、ご飯はキャセロールという強化ガラス製の中身が見える鍋で炊きました。ご飯の炊ける様子を観察する子ども達の反応は、「わあ！すごい」「いいにおい！」「踊ってる」と、真の食育の体験です。

私はカレーグループの一組を担当しましたが、包丁を怖がりつつ、玉ねぎに涙し、炒める熱さに耐え、子どもたちは根気よく最後まで取り組みました。良い達成感があつたと思います。それに立ち会えた私自身が楽しかったです。ポークカレーは皆同じですが、4組とも味の違うカレーができるのです。上戸先生が様々な種類の隠し味を用意してください、子ども達を選びました。チョコレート、ソー

たカレー作り、どれも美味しく仕上がりました。SAさんのキーマカレーとトウモロコシもおいしくいただきました。今回のように、ゆったりと時間をかけて共に活動する必要性を感じました。3年生でも包丁や火を使う作業をさせることを、クラスの授業で取り込むのはなかなか難しいことですが、しっかり準備し、じっくり取り組む場の設定の中で、安全に良い体験を可能にすることを実感しました。3年生だからという概念を取り払うかのようなよい活動ができ、家庭科の授業のように科学的な目を育てる時間となりました。また、朝ごはんはおにぎりやみそ汁などでしたが、大磯産のメザシが登場しました。1学期に海の学習で主に5・6年生が潮溜まりに取り残されたイワシを網で捕り、メザシにしたものです。兄弟達が弟達のために、兄弟のように。上戸先生、草山先生の学級経営を基盤に、素敵な森のおとまりになりました。高学年のキャンプに向けて「繋がる」。小3の子ども達には強い意識が芽生えたようです。

ステパノ学園の行事や様々な取り組みは、横の手がしっかりと繋がることで、縦の流れの中で子どもの成長を見ることができます。毎年同じ事をしていても、今年ならではのよう

に新鮮な気持ちになる自分がいいます。2学期、どんな熱い学校生活になるでしょうか、楽しみます。

救急の日

養護教諭 田島 恵

皆さんは看護師という資格をご存知でしょうか。もちろん、職業として知らない方はいらっしゃるでしょう。では、その資格の範囲で行える医療行為がどこまでなのか、ご存知でしょうか。

説明するまでもないかと思いますが、看護師は国家が認める資格です。傷病者への応急手当や救急処置、入院患者への医療的及び精神的サポートがあげられると思います。しかし、これらの内容も、場合によっては行えません。それは、医師のいない場所での医療行為です。看護師は医療的技術や知識を有していますが、それは医師の指示があつて初めて発揮されるものです。例えば、在校生に糖尿病患者がおり、インシュリン注射を持参しているとしします。このインシュリン注射は養護教諭が看護師の資格を持っていたとしても代わりに打つことはできません。その他にも、水銀式の血圧計を使用することもできません。もちろん、看護師資格があれば技術面での問題はありません。問題なのは、医師資格のないものが診断や判断を行う、また、医師の指示なく医療行為を行うことが問題なのです。

養護教諭の中には、看護師資格を持っている方もいらっしゃいます。しかし、保健室という空間での医療行為は医師法により禁止されている事柄も多く、資格を持っていること

を隠して就職する方が年々増えています。それはやはり、看護師資格を持つことで医療行為を求められる場面に遭遇してしまうからだと思います。学校は病院と違い、設備も備品も異なります。例えば医師以上の知識や技術を持つている看護師の方がいたとしても、病院で医師が行う処置には及ばないでしょう。相手を助けるためには、自分の知識や技術を過信するのではなく、適切な機関で対応してもらえよう引き継ぐことが大切だと思います。救命講習等に参加するたび、保健室勤務の看護師は養護教諭に比べて観察が得意なだけで、その他は何ら変わりはないと言われます。また、観察眼は経験によって得られると言われます。だからと言って看護師も養護教諭も同じというわけではありませんが、保健室においては変わりがないのです。

確かに、資格を持っているということは安心できることかもしれません。体調がすぐれない時に、医師や看護師の友人よりもサラリーマンの友人に相談しようと思う人は少ないと思います。資格はその人の知識や能力を保証してくれるものです。信じたり頼ることは決して悪いことではないと思います。しかし、資格を持つているから、詳しいからその人にその分野のことはすべて任せてしまおうと考えることは、受け入れてはいけない考えだと思います。特に救急救命においては、医師が一人いるだけでは助かりません。救急救命において大切なのは連携です。心臓マッサージ

をしながら救急車を呼んだり、AEDを探しに行くことは不可能です。ましてや、倒れている人が出血もしていたなら止血も必要です。そんな状態の人が二人いたなら、また五人、十人といったらどうしますか。医師や看護師の資格がないからと、見て見ぬふりをしますか。それが震災にあつて瓦礫の下敷きになっている自分の家族や友人たちであつたとしても、見て見ぬふりをするのでしょうか。いつその時が来るかはわかりません。今日かもしれないし、一生来ないかもしれません。それでも、誰かが助けてくれると思わないで、自分でできることから防災や救命の準備をして欲しいです。災害時の持ち出しセットを用意したり、消防署や赤十字が開催する救命講習に参加するのもいいと思います。完璧にする必要はありません。まずは、その時に備えて心の準備から始めてください。そして、災害時に家族や友人、地域住民の方々などと連携して支え合ってください。自分にできること、できないことを理解しておけば、自分自身にムリをさせることなく助け合えます。九月九日は救急の日。今年は災害時を想定して、缶詰等の保存食を食べてみたり、災害時に持つていくべきものを考えたり、救急救命や応急救置とはどんなものなのか調べてみませんか。



調理実習

非常勤講師 飯田 裕美

小学校の高学年になると家庭科という教科が始まります。お裁縫やお菓子を作るのが好きだった私は、家庭科を心待ちにしている小学生でした。しかし、驚いたことに私の通う小学校は、家庭科という教科がありませんでした。よく考えてみたら家庭科室のない学校だったとその時に気づき、ガツカリしたものです。

そんなある日、クラスの人気者の男子が担任の先生に「調理実習がしたい!」と言い出しました。みんな心の中に少しでもその思いがあったのだと思います。それを人気者が言えば影響を受け、みんな「やりたい!」という思いが大きくなります。クラスは一斉に盛り上がりました。でも学校に家庭科室はありません。「家庭科室がなくてもできるもの、教室でサラダ作りはどうだろう?」と一人が案を出しました。具体案も出ました。更に盛り上がります。しかし、担任の先生は渋っていました。それはそうです。組み込まれた年間カリキュラムの中に予定外の実習を、しかも二時間の枠を取るのは大変なことです。残念ながらことにその場での話は流れてしまいました。しかし、先生はそれから数か月後、私たちの思いを汲み、調理実習の時間を設けて下さいました。そして念願の初調理実習「教室でサ

ラダ作り」が叶うことになりました。みんな誰がどの食材を持っていくかなどの計画一つ一つにとってもワクワクしました。

私はドレッシング担当だったので、母と一緒に作り、みんなで作ったサラダに作ったドレッシングをかけ、学校という特別な場でみんなと食べるというこの時間が更に美味しさを増しました。今でもこの日のことが鮮明に思い出されるくらい忘れられない思い出です。振り返れば、この思い出こそ私が家庭科教師を目指した原点なのだと思います。そして私が味わった調理実習の楽しさを子どもたちと共有できればと思います、この聖ステパノ学園で、多くの時間を設けて実習を行わせて頂いています。

調理実習は、学校という特別な場でクラスの仲間と、また時には学年を隔てず色々な人々と料理を作る、そして何よりも楽しむ時間です。そしてそれらを達成するには、「協力」「共有」「連携」が必要になってきます。

調理実習は、当たり前ですが、一人で作るのではなく、「みんな」で作らないと成立しない実習です。そのためには、三々五人の少グループで、「協力」することが不可欠になってきます。そして、どう作るか、次は何をするかといった「先を読む力」もとても重要になってきます。また、一つのを時間内に作り、食べ、片付けるには「連携」も必要です。苦勞してみんなで作ったものを「美味しい」と思いながら食べる、調理実習はみんなで同

じ時間を分かち合えたという「共有」の場でもあるのです。

調理実習を行う際に、私自身が子どもたちに常々話していることは、「口は出すけど手は出さない」と言うことです。調理実習で作ったものは食べたらなくなってしまうですが、それも一つの「作品」であると私は考えています。なので、みんなで一生懸命作ったものに私が手を加えてしまったら、それは「作品」ではなくなってしまうのです。

聖ステパノ学園は、可能性を広げてくれる場所でもあります。だからこそ私自身も「今年度は何をしよう」とワクワクしながら想像を膨らませ、それを先生方に相談し、多くの協力を得て実行に移すことができます。今年度は数年ぶりに、家庭科の時間に野外実習を行わせて頂きました。小六のみでしたがサマーカーンプを見据え、家庭科室前で火起こしと調理に分かれて練習を重ねました。それは学園の広大な敷地と多くの教職員の方々の協力、そして頑張る子どもたちがいるからこそ成立できたのだと思います。

食べることは人間が生きていく上で最も重要であり、必要不可欠なことです。調理実習での経験を活かし、将来一人で生きていかなければならなくなった時に「料理をする」選択があることを子どもたちが一人でも多く気付いてくれたら良いなと願い、子どもたちの思い出に残るように今後も楽しい実習計画を考えていきたいと思っています。

「小学校」七月二十日～二十二日の二泊三日で富士山麓山の村へサマーキャンプに行って来ました。スローガンは、「みんなでたのしく思い出作り!!」でした。

小五 K・S

七月二十日から二十二日まで、サマーキャンプがありました。一日目に、楽しみにしていたのは、合同レクでした。去年は、スタンピングを集めてなぞを解くというゲームでした。今年は、六つのなぞを解き宝石を見つけるというゲームをやりました。何度も往復をして疲れしました。去年より、つり橋がゆれるようになっていておもしろかったです。

そして、次に楽しみにしていたのは、ナイトハイクでした。最後は、ちよつとしたきもだめしみたいになっていておもしろかったです。

小五 A・N

今日は、カレーライスを作りました。私は、調理係だったので、ニンジンや玉ねぎを切ったり、ジャガイモやニンジンや玉ねぎを切ったりしました。楽しかったです。みんなで協力してやったので、おいしくできました。良かったです。



ナイトハイクは、昼間とちがって星が見えて良かったです。いっしょの道を歩いていてもまるでちがう道を歩いているみたいでした。楽しかったです。

小五 A・D

今日は、カレーの玉ねぎで、たくさんみだをだしました。お母さんの大変さが、分かりました。

小五 T・S

歩くのは、つかれたけれど楽しかったです。火をあまりうまくおこせなかったです。来年はがんばります。ナイトハイクは、こわかったけれど、楽しかったです。

小六 I・K

今日は、楽しかったです。三日目も楽しみにしています。キャンプファイヤーは、楽しかったです。バスも楽しく乗れました。家族でも行きたいです。

小六 O・R

今日は、バーベキューをやったり、キャンプファイヤーをやったり、とても楽しかったです。明日で帰ってしまうので、少し残念です。

小六 K・R

私が面白かったのは、四班のアルゴリズムこうしんです。私は、面白くて大笑いしました。

小六 S・R
今日のお昼は、野外炊事で野菜入り焼きそばを作りました。その後、キャンプファイヤーの準備をして、本番に入りました。一班から六班までの出し物をやって、今日は、最後のサマーキャンプでした。とっても最高な一日でした。

小六 G・S

ライトを消したら、くらい森はすごく静かでよかったです。今日できたことは、また、明日やって、今日できなかったことは、明日できるようにしたいです。

一日目

入村式

ニコニコランチ

小・中合同レク

自炊（カレーライス）

ナイトハイク

二日目

朝礼拝

野外炊事（富士宮焼きそば）

キャンプファイヤー

三日目

朝礼拝

クリーン活動

退村式



帰りに、富士山の形のメロンパンを食べました。

「中学校」七月末に富士山麓山の村で実施されたステパノサマーキャンプ。今年は例年以上に「楽しかった」「まだ帰りたくない」という声があちこちで聞かれました。

《一日目》

中一 M・T

合同レクで緊張をした。歩き回ってとても疲れた。野外炊事で失敗した。肉をかたくしてしまった。野菜の切り方を失敗した。麵をかたくしてしまった。でも、お風呂でたまっていた疲れがとれた。一番星が見られた。

中三 M・K

今日はサマーキャンプ一日目でした。合同レクでは、飛田さんといろいろと話ができました。野外炊事の前に盛大にころんで、いまだにひざが痛いんです。でも、野外炊事はうまくいきました。入浴は気持ちよかったです。

《二日目》

中一 F・J

今日は、とても楽しい一日でした。私は、朝起きた時からキャンプファイヤーの事で頭がいっぱいでした。とっても楽しみて昨日とは違うドキドキでした。一番最初は、朝の礼拝から始まり、その後朝食を作りました。包丁がなかったり、油がなかったりで、一時はどうなるかと思ったけれど、無事に終わることができて本当に安心しました。

クラフト作りは、一から竹とんぼを作るので「上手にできるかなあ」と思ったけど、講師の先生が丁寧に教えてくれてとても楽しい時間でした。自然散策では、鹿の骨やこけのこと、キノコの事まで教えてもらいました。知らないことがたくさん知れて今日だけで、とうっても頭がよくなったと思います。キャンプファイヤーは最初から最後までとても楽しい時間で、自分たちの出し物ではすべったかなとすごく心配だったけれど、班の友達が楽しそうにしていたので何よりです。本当に楽しい一日で、夢に出てきそうです。

《三日間を振り返って》

中一 I・N

楽しみにしていた一日一日があつという間に終わって、三日めが来てしまいました。少しさびしいですが、七十二時間ステパノのみんなと一緒に行動出来てよかったです。

中二 A・R

今日はサマーキャンプ最終日でした。楽しかったです。今までの経験を通して思い出を作りました。朝食を食べた事や風呂に入った事や寝た事やそして自分達でテキパキ動いた事色々ありました。

その中で最も心に残ったのは、一日目の野外炊事でした。理由は自分達の力で夕食を作りに最後に美味しく出来て美味しく食べられた

からです。その他には僕は運搬係として責任を持ち、湯のみを配ったり灰皿を用意したり食材をリヤカーにのせ、何度も行きましたからです。三日間もテキパキと動けたのでよかったです。

中二 O・H

今日は、クリーン活動がありました。ぼくは、生活棟をきれいにしました。ほとんどきれいになったので、よかったです。そのあと、退村式をやって学校に帰りました。学校ではサマーキャンプの振り返りをしました。ぼくは、来年3年生になるので班長や副班長になるかもしれないですが、後輩にやさしくして、3年生らしい行動ができるようにしたいです。

中三 A・T

今年のサマーキャンプは、全体的に余裕が無く、休んでいる暇も無く、ずっと動き回っていたように思う。その影響もあってか、疲れを顔に出してしまうこともあり、自分もまだまだ「子どもだな」と振り返ってみると実感する。

しかし、班長として皆をしつかり引つ張れたと思えるところもあった。

この経験や反省を残りの学校生活に活かして、中3として皆を引っ張っていける存在になれるように、これからも努力していきたい。



今回は、小川学園長に制服・校章、校歌のことについてお話を伺いました。



一九九七年に学園長に就任された小川先生は、ホームの子も通学生も同じ制服を着ることが願いだったそうです。

子どもに聞いてみました。

「ステパノの制服はどうですか？」

「赤いループタイを近所の人にほめられました」「みんな同じ学校の仲間って感じ」

ブレザーの左胸の校章のまわりにあしらわれているのはオリーブです。旧約聖書のノアの箱舟で鳩がくわえてきたオリーブは、平和の象徴です。

校章は、澤田美喜先生



がデザインしたそうです。どのような思いが込められているのかは記録に残されていないようです。しかし、白、赤、青という配色は、美喜先生がフランスで暮らしていたことからインスピレー

ションを得たのではないかと小川先生はおっしゃいます。

先端に向かって少し太くなる十字架の形も特徴的です。澤田美喜記念館には、美喜先生が集めた十字架が数多く展示されていました。たくさんの方が信仰とともに大切にした色も形もさまざまな十字架を知っている美喜先生は、ステパノの子どもたちにふさわしい校章を作って下さったのでしょうか。



ステパノの校歌の作詞は美喜先生、作曲は矢代秋雄さんです。矢代さんは東京藝術大学研究科を卒業した後、パリ国立高等音楽院に留学した、昭和の日本を代表する作曲家です。完璧主義と評されるほど厳しく、わずか四十七歳で亡くなったこともあり、生涯で作曲した数はとても少ないそうです。

校歌ができたのはかなり前のようです。美喜先生と矢代さんがどのようなつながりがあったのか、調べてみましたが文献が残っていません。確かなおことはわかりませんでした。ですが、作詞も作曲も素晴らしい、校歌としては大変価値が高く、品格の高いものであるといえるのではないでしょうか。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

＜日本漢字能力検定＞

7級 小4 K・F

＜日本英語技能検定＞

5級 小5 K・S
4級 中3 O・R

編集後記

いよいよ二学期が始まりました。子ども達は元気いっぱいに登校です。長い休みの間に、心もからだもひとまり大きくなったように思います。きつと今学期も元気いっぱい学校生活を送ってくれることでしょう。そんなステパノ学園の二学期は、行事が盛りだくさんです。中でも二学期の始業礼拝から一週間で迎える「ステパノまつり」は学園が活気づき、盛り上がる行事です。小学生も中学生も毎日準備に大忙し。実行委員になっている中学生は、夏休みの間も学校に集まって準備をしていました。各企画、子ども達の魅力が詰まっています。どんなまつりになるか、今から楽しみです。（も）

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒二五〇〇三 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463・611・1298

FAX 0463・611・9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一七年九月七日（木）発行 第213号